

() は
保存温度

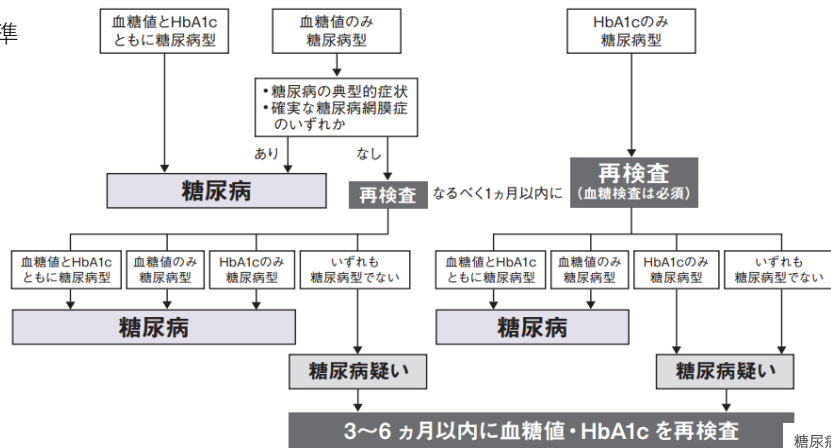
生化学検査

項目コード	項目名	採取容器	必用量	検査方法	基準値	区分 実施科	報告 日数	備考	外注先
160 3D010	血糖(血清) GLU/Glu 3D0100000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	ヘキシナー ゼUV法	70~110 mg/dL	生化 I 11	1~2		1
150 3D010	血糖(血漿) GLU/Glu 3D0100000022272	3 血漿容器(灰)	血漿 0.5(冷蔵)	電極法	70~110 mg/dL	生化 I 11	1~2		1
1857 3D046	HbA1c(NGSP) ヘモグロビンA1C 3D0460000019062	3 血漿容器(灰)	NAF加血液 0.5(冷蔵)	HPLC法	4.6~6.2 %	生化 I 49	1~2	EDTA血液検査可 *1	1
1449 3D085	1,5-AG 1,5-アンヒドログルシトール 3D0850000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	比色法	14.0以上 μg/mL	生化 I 80	3~5	*1	3
1101 3D055	グリコアルブミン GA 3D0550000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	酵素法	11.6~16.4 %	生化 I 55	3~5	*1	3
1285 3E010	乳酸 3E0101000031271	10 過塩素酸管	除タンパク液 0.5(凍結)	酵素糖	4.2~17.0 mg/dL	生化 I 47	3~5	No10専用容器に血液1.0mL を入れよく混和し徐蛋白を行って ください。 遠心機の有る場合は、遠心分 離を行い上清を凍結にて提出く ださい	3
1286 3E015	ピルビン酸 3E0151000031271	10 過塩素酸管	除タンパク液 0.5(凍結)	酵素法	0.3~0.9 mg/dL	生化 I 47	3~5		3
1807 3E045	ケトン体分画 3E0450000023272	1 全血容器(茶)	血清 0.5(凍結)	酵素サイクリ ング法	総ケトン体: 131以下 アセト酪酸: 55以下 3-ヒドロキシ酪酸: 85以下 μmol/L	生化 I 59	3~5	総ケトン体にアセトンは含まれ ません	3
1598 3D080	ヒアルロン酸(血清) 3D0800000023062	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	ラテックス凝 集法	50.0以下 ng/mL	生化 I 179	3~5	肝硬変の判定基準130以上 *2 50~130の場合肝臓の繊維化が疑 われます	3
1599 3D080	ヒアルロン酸(胸水) 3D0800000042062	5 尿スピッツ	胸水 0.5(冷蔵)	ラテックス凝 集法	μg/mL	0	3~5		3

*1 HbA1c、グリコアルブミン、1,5AGのうちいずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、
経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り算定できる

*2 ヒアルロン酸：慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる

糖尿病診断基準



糖尿病標準診療マニュアルより

糖尿病型

- ① 早朝空腹時血糖値126mg/dL以上
- ② 75g経口ブドウ糖負荷試験(OGTT) 2時間値200mg/dL以上
- ③ 随時血糖値200mg/dL以上
- ④ HbA1c6.5%以上

- ①②③のいずれかと④が確認されれば糖尿病型と診断
- ②③④のいずれかひとつだけを認めた場合は「糖尿病型」と診断する。別の日に再検を行い、再び「糖尿病型」が確認されれば糖尿病と診断する。ただし、HbA1cのみの反復検査で糖尿病と診断することは不可とする
- ③血糖値が「糖尿病型」(①②③のいずれか)を示し、かつ次の条件が満たされた場合は糖尿病と診断する→糖尿病の典型的症状(口渇・多飲・体重減少の存在)、確実な糖尿病網膜症の存在